

セラピードッグチーム 詳細



セラピードッグチームは、アニマルセラピーの中でも、犬に特化した活動を行うために、日本レスキュー協会が独自に定めた認定基準を持った犬と飼主の総称です。

又、訪問施設での信頼性や安全性を保つために設けた、犬や飼主（以後ボランティア）に対する一定の基準をもとに基準に応じた内容と訪問施設で活動を行います。

<参考：アニマルセラピーという言葉は日本での造語ですが、犬に限らず、動物とのふれあいから得られる身体的・精神的・社会的効果を、医療・福祉・教育など様々な現場で活用することを指し、活動場所や目的・方法によって更にいくつかの定義で分類されます。>

■アニマルセラピーとセラピードッグチーム

アニマルセラピーの分類		セラピードッグチームの活動
動物介在活動 AAA (Animal-assisted-activities)	生活の質の向上、情緒的な安定、また教育やレクリエーションを目的とする。しばしば、治療的効果が見られますが、意図したものではなく、AATとは区別されます。	一定の基準をクリアした犬とボランティアを基盤として、一度に、数十名を対象とします。対象者それぞれの個性を伸ばし、交流を通じて対象者のQOL（生活の質）を高めることを目的とし、「ふれあい」「ゲーム」などのレクリエーションを行う。
動物介在教育 AAE (Animal-assisted-education)	動物とのふれあいや知識を高めることで、「命の大切さ」「思いやり」「責任感」を学び、「子供の心を育む」ことを目的する。	
動物介在療法 AAT (Animal-assisted-therapy)	医療従事者が介入し、対象となる人、個々の機能や福祉向上の目標を定め、身体機能、社会的機能、精神面の向上・回復を目的とする。	

■活動範囲の分類・主な内容・活動場所

活動範囲の分類		主な内容	主な活動場所
AAA 動物介在活動	環境や対象者の変化が予測し易い施設	ふれあい・ゲーム	福祉・教育現場・医療施設内の福祉現場
	環境や対象者の変化が予測し難い施設		
AAE 動物介在教育	環境や対象者の変化が予測し易い施設	ふれあい・ゲーム・ 講習	福祉・教育現場
	環境や対象者の変化が予測し難い施設		
AAT 動物介在療法		ふれあい・作業	福祉・医療施設
震災被災地への慰問活動		ふれあい・ゲーム	震災被災地仮設や避難所
日本レスキュー協会で行うふれあい活動		ふれあい・ゲーム	日本レスキュー協会本部
イベントで行うセラピードッグふれあい活動		ふれあい・デモ	各イベント会場

■セラピードッグチーム

人のみで活動に参加

ボランティア

参加ボランティア基準	・ガイドラインを熟知し、対象者や関係者に不安や不快を与えないコミュニケーションが取れる。
活動範囲	・全ての活動において、見学及び人のみで参加。

【受験資格】 受験時において年齢が高校生以上（15歳以上）であること。【試験】 なし

犬と共に活動に参加

研修生

参加犬基準	・活動をストレスと感じず、安全性と信頼性を保つために必要な適正がある。
参加ボランティア基準	・犬の適正を活かし、施設や対象者が安全にふれあえるよう犬をハンドリング及び管理することができる。 ・ガイドラインを熟知し、対象者や関係者に不安や不快を与えないコミュニケーションが取れる。
活動範囲	①AAA・AAEの環境や対象者の変化が予測し易い施設で行う活動 ②震災被災地への慰問活動 ③日本レスキュー協会で行うふれあい活動 ④イベントで行うセラピードッグふれあい活動 ①～④で「ふれあい」活動を中心に行う。

【受験資格】 すべての犬種およびすべての大きさの犬が受験できます。ただし、受験時において犬の年齢が8ヶ月以上（避妊/去勢手術済み・マイクロチップ挿入済み）、人の年齢が高校卒業以上（18歳以上）であること。

【試験】 ・潜在性テスト ・適正テスト

アシスタントドッグ

参加犬基準	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生として活動の経験を持つ。 ・適正のみならず、服従訓練を習得。 ・対象者を限定し、AAT以外の活動範囲で「ふれあい」を安全性と信頼性を保ち行える
参加ボランティア基準	<ul style="list-style-type: none"> ・環境や対象者の変化が予測し難い状況でも犬をコントロールすることができる。 ・ガイドラインにない状況でも対象者や関係者に不安や不快を与えないコミュニケーションができる。
活動範囲	①AAA・AAEの環境や対象者の変化が予測し易い施設及び、し難い施設で行う活動 ②震災被災地への慰問活動 ③日本レスキュー協会で行うふれあい活動 ④イベントで行うセラピードッグふれあい活動 ①～④で「ふれあい」活動を中心に進行。

【受験資格】 研修生ペアとして、2 回以上の活動経験があり、当協会の推薦がある方。（推薦の基準：アシスタントドッグとして人・犬ともに現場で活動出来るか。）

【試験】・適正テスト・ハンドリングテスト（TH-1） ※ハンドリングテストは、適正テスト合格後に受験可能

セラピードッグ

参加犬基準	<ul style="list-style-type: none"> ・アシスタントドッグとして活動の経験を持つ。 ・対象者を問わずAAT以外の活動範囲で「ふれあい」のみならず、あらかじめプログラムされた「ゲーム」を安全性と信頼性を保ち行える。
参加ボランティア基準	<ul style="list-style-type: none"> ・AAT以外の活動範囲で犬のコントロールができる。 ・「ふれあい」の際、対象者や関係者に不安や不快を与えないだけでなく、個人に合わせたコミュニケーションができる。 ・「ゲーム」を行なう際、対象者や関係者に不安や不快を与えないよう犬をコントロールすることができる。
活動範囲	①AAA・AAEの環境や対象者の変化が予測し易い施設及び、し難い施設で行う活動 ②震災被災地への慰問活動 ③日本レスキュー協会で行うふれあい活動 ④イベントで行うセラピードッグふれあい活動 ①～④で「ふれあい」活動を中心に、補助的に「ゲーム」を行う。

【受験資格】 アシスタントドッグペアとして、50 回以上又は、半年間で 25 回以上の活動経験があり、当協会の推薦がある方。（推薦の基準：セラピードッグとして人・犬ともに現場で活動出来るか。）

【試験】・ハンドリングテスト（TH-2）

※活動経験について

通年 50 回又は、半年間で 25 回以上の活動には、こちらが指定する障害者施設 3 回及び、児童施設 1 回の参加が必要です。

トップセラピードッグ

参加犬基準	<ul style="list-style-type: none"> ・AAT以外の活動範囲で「ふれあい」のみならず、対象者に合わせた「ゲーム」を自らプログラムし、安全性と信頼性を保ち行える。
参加ボランティア基準	<ul style="list-style-type: none"> ・AAT以外の活動範囲で犬のコントロールができるのみならず、対象者に合わせたゲームの提案や犬のトレーニングが行える。 ・ふれあいのみならず、ゲームを行う際、対象者や関係者に不安や不快を与えないだけでなく、個人に合わせたコミュニケーション及び対応ができる。
活動範囲	<p>①AAA・AAEの環境や対象者の変化が予測し易い施設及び、し難い施設で行う活動 ②震災被災地への慰問活動 ③日本レスキュー協会で行うふれあい活動 ④イベントで行うセラピードッグふれあい活動</p> <p>①～④で「ふれあい」「ゲーム」を組合せてプログラム考案ができ、その内容をチームのリーダーとして進行することができる。</p>

【受験資格】 アシスタントドッグペアから通算して、100回以上又は、セラピードッグペアとして、半年間で25回以上の活動経験があり、当協会の推薦がある方。（推薦の基準：トップセラピードッグとして人・犬ともに現場で活動出来るか。）

【試験】・ハンドリングテスト（TH-3）

※受験資格免除のご案内

トップセラピードッグ育成経験者は、新たに受験するパートナー犬が、セラピードッグとして、通年50回以上の活動経験があり、当協会の推薦がある方はトップセラピードッグの試験を受けることが可能。

■動物介在療法（AAT）参加基準

人のみ参加	<p>下記の要件を満たす方は同伴できる犬を保持していなくても、サポーターとして、AATに参加して頂けます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人利益が目的ではなく、チームの一員として活動をサポートして下さる方。
犬同伴	<p>下記の要件を満たす犬及びそのペア（人）は、犬と共にAATに参加していただけます</p> <p>犬：トップセラピードッグ合格</p> <p>ペア（人）：セラピードッグチームの活動実績において、本協会の推薦があり、個人利益が目的ではなく、チームの一員として活動をサポートして下さる方。</p>

活動は全て、無償のボランティアとして参加していただきますが、下記の要件を満たす犬及びそのペア（人）は有償ボランティア（経費など一部負担）として参加して頂けます

- ★JRT認定において、セラピードッグインストラクター以上の認定取得者。
- ★取得した知識を活かし、ボランティアリーダーとしてプログラムの提案・進行・ボランティア育成など協会スタッフと共に活動をサポートして下さる方。